

ハモグリバエ類

ナモグリバエ garden pea leaf miner(*Chromatomyia horticola*)

マメハモグリバエ serpentine leaf miner(*Liriomiza trifolii*)



ナモグリバエ成虫(左)と蛹(右)



ナモグリバエ幼虫の食痕



マメハモグリバエ成虫



マメハモグリバエ
幼虫の食痕

【見分け方(発生生態と被害の特徴)】

露地栽培では6月上旬から葉の食害がみられる。幼虫は葉に曲がりくねった筋状の食害痕を残す(絵描き症状)。成虫は産卵管を葉に突き刺して産卵するため、葉に1mm位の白い小斑点を残す。幼虫、成虫とも葉に被害をもたらす、商品価値を低下させる。

ナモグリバエ：幼虫は葉肉内を潜行して加害し、葉肉内から頭部の一部を出したまま蛹化する。食害痕は白色の場合が多く、蛹は初期は白色、後に黒くなる。成虫は全体に灰黒色である。

マメハモグリバエ：国外からの侵入種で、産卵、加害習性はナモグリバエと同じである。しかし、吸汁孔と産卵は葉表に限られることと、食害痕は褐変することが多い点異なる。また、終齢幼虫は葉肉内から地上に落下し、蛹化する。蛹は茶色である。成虫は黒地に黄色の斑紋がある。

その他、ナスハモグリバエも確認されている。